

地域別の現状と2040年頃の将来展望

| | | 尾張地域 | | | | | | |
|------|--------------------|---------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------|----------------------------------|------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | 関連指標等 | 現状 (総人口：513万人(2015年)) | 関連指標等 | | | | 将来展望 (推計人口：481万人(2040年)) | |
| | | | 名古屋 | 尾張北東部 | 尾張中西部・海部 | 知多 | | |
| 県民生活 | 人口構造 | 高齢化率：2015年 (市区町村別の数値幅) 【県平均 23.8%】 | ・若い人口構造の市町と、 高齢者が多い市町村が混在 ・ 名古屋都心部 は、若い人口構造にも関わらず、 合計特殊出生率が低い | 24.2% (20.8%～28.7%) | 24.4% (15.5%～28.3%) | 25.5% (21.1%～30.7%) | 23.9% (21.1%～34.5%) | ・高齢化率が30%未満の 若い市町 と、40%を超える 高齢者が多い市町村が混在 ・高齢化や人口減少により、担い手不足が深刻化 |
| | 職場住居の すみ分け | 就従比：2015年 (0.80未満の市区町村数) | ・ オフィス街や工場等 の職場が集積する市町村と、住宅地が集積する市町（ ベッドタウン ）が 混在 ・大規模ニュータウンが複数存在 | 1.22 (0.80未満：4/16区) | 0.90 (0.80未満：6/13市町) | 0.81 (0.80未満：5/12市町村) | 0.89 (0.80未満：5/10市町) | ・ AI、ICT により、効率的で快適な 生活 や、時間や場所に縛られない 働き方 が実現 ・ リニア 開通で、 遠隔地への通勤 も可能になる |
| | 医療・福祉 | 救命救急センター数：2019年 | ・大学病院や高機能病院が複数立地 ・ 保健・福祉・医療の専門機関や専門大学 も立地 | 7か所 | 6か所 | 3か所 | 1か所 | ・健康寿命が延伸し、 元気な高齢者 が職場や地域の 担い手として活躍 ・医療・介護需要は増大 |
| | 外国人 | 外国人人口比率：2018年 (市区町村別の数値幅) 【県平均 3.46%】 | ・ 外国人が多い地域がある ・多くの外国人は製造業に就業するが、 名古屋では、多様な職種に就業 | 3.65% (1.93%～11.23%) | 3.11% (1.45%～6.48%) | 2.22% (1.37%～7.66%) | 2.57% (1.33%～3.52%) | ・ 外国人の受入ノウハウが蓄積し、多文化共生 も浸透 ・経済成長を遂げた アジア地域との労働力獲得競争 が発生 |
| 産業経済 | 製造業 | 製造品出荷額等：2017年 〔輸送用機器の比率〕 【県平均 59.3%】 | ・沿岸部、内陸部ともに、製造業が盛んな市町村あり ・輸送用機器に偏らず、 多様な品目を製造 | 3.5兆円 (輸送用機器13.8%) | 4.3兆円 (輸送用機器10.3%) | 3.2兆円 (輸送用機器10.8%) | 5.0兆円 (輸送用機器32.1%) | ・ 第4次産業革命 による 高度なモノづくり技術 の利用が拡大 ・ 生産性の低い製造業の海外移転 が進む |
| | 商業 | 小売吸引力指数：2016年 (1.00以上の市区町村数) | ・ 名古屋都心部 に加え、 郊外 においても 買い物客が流入 する市町あり | 1.34 (1.00以上：6/16区) | 0.83 (1.00以上：2/13市町) | 0.82 (1.00以上：3/12市町村) | 0.79 (1.00以上：2/10市町) | ・ アジアに富裕層を含む巨大マーケット が形成 ・ 名古屋への一極集中 がさらに進み、多核連携構造の維持が困難化 |
| | 農林水産業 | 農業産出額：2017年 (県内シェア) | ・ 尾張中西部・海部 や 知多 では 農業・水産業が盛ん ・農業就業者等の減少や高齢化が課題 | 30億円 (0.9%) | 148億円 (4.6%) | 391億円 (12.1%) | 399億円 (12.3%) | ・ 大規模農家の拡大 や、 スマート農業 の普及により、生産性が向上 ・ 農産物の輸入拡大 や、 世界の食料需要増加 も影響 |
| | 情報通信業 | 情報通信業GDP：2016年度 (県内シェア) | ・ 名古屋には情報通信業が比較的集積 ・大学の情報系学部は存在するものの、 ベンチャー不毛の地 と言われる | 1兆1,551億円 (78.5%) | 610億円 (4.1%) | 412億円 (2.8%) | 326億円 (2.2%) | ・ 高速・大容量のデータ通信技術 が進展 ・ IT分野などの世界的な高度人材の獲得競争 が激化 |
| 県土基盤 | 交通 | 新幹線駅 空港 港湾 主な広域幹線道路 | ・名古屋駅を中心とした鉄道網、空港、港湾、広域道路網といったインフラが充実しており、 国内外と人流・物流の基盤が繋がっている | 名古屋駅 県営名古屋空港 名古屋港 名二環、伊勢湾岸道など | — 県営名古屋空港 — 東名、名神、中央道など | — 県営名古屋空港 名古屋港 名神、東海北陸道など | — 中部国際空港 名古屋港、衣浦港 知多半島道路など | ・ リニア開通 や 広域道路網の充実 等により、物流・人流の基盤がさらに整備 ・ 2037年までリニアの終着駅 となる効果享受 |
| | 観光資源 | 年間利用者150万人以上の施設数(公表分のみ)：2018年 (主な施設名) | ・歴史文化・スポーツ・公園など、 多様な観光資源 が存在 ・ 観光客数が多い施設は、名古屋に集中 | 7施設 〔・熱田神宮 ・ナゴヤドーム など〕 | 2施設 〔・愛・地球博記念公園 ・成田山名古屋別院〕 | 1施設 〔・国営木曽三川公園 138タワーパーク〕 | 1施設 〔・中部国際空港〕 | ・ 訪日外国人が増加 ・コンテンツツーリズムなど 多様な観光 が普及 ・ リニア開通 で、 首都圏や関西圏からの観光客 が増加 |
| | 災害 | 津波浸水想定における浸水域 | ・名古屋・海部地域には 国内最大のゼロメートル地帯 が存在 ・尾張北東部には、基幹災害拠点病院が立地 | あり | なし | あり | あり | ・ 南海トラフ地震 の発生リスクが上昇 ・気候変動に伴い、 災害が激甚化 |
| | 環境・エネルギー | 生態系ネットワーク協議会 (協議会名) | ・各地域で、大学、NPO、企業、行政などが参画する 環境保全の取組 が展開 ・知多半島周辺に火力発電所が多数立地 | あり (東部丘陵、尾張西部) | あり (東部丘陵、尾張北部) | あり (尾張西部) | あり (知多半島) | ・ 再生可能エネルギー が主力電源に近づく ・分散型エネルギーシステムへの移行が進む ・ SDGs の理念が世界中に浸透 |
| 広域連携 | 広域連合 (主に処理する業務) | ・知多北部では、広域連合を設置し、介護保険関係事務を広域的に実施 | — | — | — | 知多北部広域連合 (介護保険関係) | ・人口減少に伴い、 フルセットの行政サービスが困難 となる 自治体 が現れ、さらなる広域連携の検討が必要となる | |

| | | 西三河地域 | | | 東三河地域 | | | |
|------|--------------------|---------------------------------------------|------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------|
| | | 現状 (総人口：159万人(2015年)) | 関連指標等 | 将来展望 (推計人口：160万人(2040年)) | 現状 (総人口：76万人(2015年)) | 関連指標等 | 将来展望 (推計人口：66万人(2040年)) | |
| 県民生活 | 人口構造 | 高齢化率：2015年 (市区町村別の数値幅) 【県平均 23.8%】 | ・県内地域で最も若い人口構造 ・合計特殊出生率も比較的高い ・子育て世代が流出 | 20.8% (16.9%～24.0%) | ・総人口は現状の水準を維持 ・高齢化率は約30%に上昇 ・山村地域では集落機能が弱体化 | ・県内地域で最も高齢化率が高く、人口減少が既に始まっている (特に山間部で顕著) | 25.7% (24.1%～48.8%) | ・地域の全市町村で高齢化と人口減少が進み、担い手不足が深刻化 ・山間部では人口減少と高齢化が一層進行 |
| | 職場住居のすみ分け | 就従比：2015年 (0.80未満の市区町村数) | ・職場と住宅地の双方を有する市町が多い ・他地域からも就業者が流入 | 1.04 (0.80未満：1/10市町) | ・AI、ICTにより、効率的で快適な生活や時間や場所に縛られない働き方が実現 | ・職場と住宅地の双方を有する市町村が多い ・半島部や山間部では就業者が流入 | 0.95 (0.80未満：0/8市町村) | ・AI、ICTにより、効率的で快適な生活や時間や場所に縛られない働き方が実現 |
| | 医療・福祉 | 救命救急センター数：2019年 | ・平野部には高機能病院が複数立地 ・山間部には無医地区あり | 5か所 | ・健康寿命が延伸し、元気な高齢者が職場や地域の担い手として活躍 ・医療・介護需要は増大 | ・平野部には高機能病院が立地 ・北部山間部には無医地区があり、オンライン診療・服薬指導を実施 | 2か所 | ・健康寿命が延伸し、元気な高齢者が職場や地域の担い手として活躍 ・南部の医療・介護需要は増大(北部は減) |
| | 外国人 | 外国人人口比率：2018年 (市区町村別の数値幅) 【県平均 3.46%】 | ・外国人が多い地域で、特に南部で多い ・多くの外国人は、製造業に就業 | 4.33% (3.10%～7.83%) | ・外国人の受入ノウハウが蓄積し、多文化共生の取組も浸透 ・アジア地域との労働力獲得競争が発生 | ・南部では外国人が多く、山間部では少ない ・多くの外国人は、製造業に就業 | 3.98% (0.76%～4.76%) | ・外国人の受入ノウハウが蓄積し、多文化共生の取組も浸透 ・アジア地域との労働力獲得競争が発生 |
| 産業経済 | 製造業 | 製造品出荷額等：2017年 (輸送用機器の比率) 【県平均 59.3%】 | ・自動車製造業が圧倒的に盛ん ・グローバル企業のマザー工場も立地 | 26.2兆円 (輸送用機器81.3%) | ・第4次産業革命で高度技術が利用拡大 ・製造業の海外移転や電動化等による産業構造変化 | ・山間部以外では、製造業が盛ん ・自動車製造業の占める割合が大きい | 4.8兆円 (輸送用機器59.2%) | ・第4次産業革命で高度技術が利用拡大 ・製造業の海外移転や電動化等により産業構造が変化 |
| | 商業 | 小売吸引力指数：2016年 (1.00以上の市区町村数) | ・買い物客が流入する地域は限定的 (中核市2市では買い物客が流出) | 0.88 (1.00以上：2/10市町) | ・名古屋への一極集中がさらに進み、多核連携構造の維持が困難化。 | ・地域の全市町村で買い物客が流出 | 0.90 (1.00以上：0/8市町村) | ・名古屋への一極集中がさらに進み、多核連携構造の維持が困難化 |
| | 農林水産業 | 農業産出額：2017年 (県内シェア) | ・南部では、農業・水産業が盛ん ・山間部には林業あり ・就業者は減少・高齢化している | 563億円 (17.4%) | ・大規模農家の拡大や、スマート農業・林業の普及により、生産性が向上 ・農産物の輸入拡大等による影響 | ・県内随一の農業地域 ・林業・水産業も盛ん ・就業者は減少・高齢化している | 1,688億円 (52.2%) | ・大規模農家の拡大や、スマート農業・林業の普及により、生産性が向上 ・農産物の輸入拡大等による影響 |
| | 情報通信業 | 情報通信業GDP：2016年度 (県内シェア) | ・情報通信業のGDPは県内地域で2番目だが、多いとは言えない | 1,502億円 (10.2%) | ・高速・大容量のデータ通信技術が進展 ・IT分野などの世界的な高度人材の獲得競争が激化 | ・情報通信業のGDPは県内地域で最少 | 312億円 (2.1%) | ・高速・大容量のデータ通信技術が進展 ・IT分野などの世界的な高度人材の獲得競争が激化 |
| 県土基盤 | 交通 | 新幹線駅 空港 港湾 主な広域幹線道路 | ・充実した広域道路網や、港湾、新幹線駅が存在 ・豊田市駅から名古屋駅へのアクセスが40分を超える | 三河安城駅 — 衣浦港 東名、新東名など | ・東海道新幹線の利便性向上や広域道路網等のさらなる充実 ・自動運転やMaaS等が進展し、地域の公共交通を補完 | ・広域道路網や、港湾、新幹線駅が存在 ・半島先端部への自動車専用道路がない ・三河港から高速道路へのアクセスに30分を要する。 | 豊橋駅 — 三河港 東名、新東名など | ・東海道新幹線の利便性向上や広域道路網等の充実 ・自動運転やMaaS等が進展し、地域の公共交通を補完 |
| | 観光資源 | 年間利用者150万人以上の施設数(公表分のみ)：2018年 (主な施設名) | ・歴史・文化、産業、自然といった観光資源が存在 ・観光客数は伸び悩んでいる | 3施設 (刈谷ハイウェイアス ・NEOPASA岡崎 など) | ・訪日外国人が増加 ・コンテンツツーリズムなど多様な観光が普及 | ・歴史・文化、自然といった観光資源が存在 ・観光客数は伸び悩んでいる。 | 2施設 (豊川稲荷 ・ラグーナテンボス) | ・訪日外国人が増加 ・コンテンツツーリズムなど多様な観光が普及 |
| | 災害 | 津波浸水想定における浸水域 | ・沿岸部にゼロメートル地帯が存在 | あり | ・南海トラフ地震の発生リスクが上昇 ・気候変動に伴い、災害が激甚化 | ・沿岸部などにゼロメートル地帯が存在 | あり | ・南海トラフ地震の発生リスクが上昇 ・気候変動に伴い、災害が激甚化 |
| | 環境・エネルギー | 生態系ネットワーク協議会 (協議会名) | ・大学、NPO、企業、行政などが参画する環境保全の取組を実施 ・農業用水を利用した小水力発電がある | あり (東部丘陵、西三河 西三河南部) | ・再生可能エネルギーが主力電源に近づく ・分散型エネルギーシステムへの移行 ・SDGsの理念が世界中に浸透 | ・大学、NPO、企業、行政などが参画する環境保全の取組を実施 ・渥美半島には風力発電所がある | あり (新城設楽、東三河 渥美半島) | ・再生可能エネルギーが主力電源に近づく ・分散型エネルギーシステムへの移行 ・SDGsの理念が世界中に浸透。 |
| 広域連携 | 広域連合 (主に処理する業務) | ・衣浦東部では、広域連合を設置し、消防関係事務を広域的に実施 | 衣浦東部広域連合 (消防関係) | ・三河地域新幹線駅利用促進期成同盟会の設立(2019.5)を契機に、三河地域の自治体・経済界が一丸となった取組が進展 | ・地域の全市町村が参画する広域連合において、様々な事務・事業を広域的に実施 | 東三河広域連合 (介護保険、消費生活、調査研究など) | ・人口減少に伴い、フルセットの行政サービスが困難となる自治体が現れ、さらなる広域連携の検討が必要となる | |